



特集

林 新学長と 学生たちの未来トーク

Contents

- 02 学長と学生による座談会
- 04 卒業生・修了生の活躍
- 08 懐かしの先生からのメッセージ

- 09 県大生の今
- 10 国際交流／理事長コラム
- 11 同窓会からお知らせ／卒業生向けの支援

人とつながる、人を育てる。



埼玉県立大学
SAITAMA PREFECTURAL UNIVERSITY

林新学長と 学生たちの未来トーク

今年度新たに就任した林学長と、在学生3名による座談会が開催されました。大学生生活のリアルな声と、学長の温かくも力強いメッセージが交差するひととき。進路選択のきっかけから、県大の活用法、将来への展望まで、ざっくばらんに語り合いました。

「進路選択のきっかけ」 ×「県大への期待」

林学長 皆さんは、どんなきっかけで医療専門職を目指そうと思ったのですか？

三浦さん 最初は、ぼんやりと病院で働きたいという思いだったので、医師や看護師が思いました。進路を調べた中で、検査結果が診断に不可欠であることと、それを担う臨床検査技師の存在を知り興味を持ちました。AI化が進んでも必要とされる仕事だと思っています。

美濃和さん 家族が腰痛を抱えていて、何ができるかを調べていたとき、県大に理学療法士としてその分野を研究している先生がいると知りました。論文も読んで、この先生に学びたいと思いました。

増崎さん 私は実家では祖父母と暮らしていますが、年々できないことが増えていく姿を見て、支援したいと思いました。病院で作業療法士の紹介展示を見て、「これが自分のやりたい仕事だ」と感じました。

林学長 地域包括ケアの必要性がますます高まる中、在宅医療の担い手として頑張ってもらいたいと思います。さて、検査技術科学専攻の先生方は、学生にコミュニケーションも大切だと伝えていますが、

三浦さん 授業ではグループ実験が多く、結果を患者さんに分かりやすく説明する練習もあります。コミュニケーションの大切さを実感しています。

林学長 美濃和さんは、教員の論文まで読んだと言っていました、高校の先生からそのような指導があったのですか？

美濃和さん いいえ、実は、母が理学療法士

で、仕事や英語での発表の準備をしている姿を見て、自然と関心を持ちました。

林学長 皆さん、様々な思いを持って、入学をされたんですね。入学前と入学後で印象の変化はありましたか？

増崎さん 私は在宅支援に関心があって入学しましたが、子どもの支援や精神領域など友人たちがそれぞれの自分の関心のある分野に真剣に取り組んでいる姿に刺激を受けています。

美濃和さん 私は先生の印象が変わりましたが、大学の先生は、孤高な存在かと思っていたのですが、実際はとても親身で、進路や研究の相談にも丁寧に対応してくださいます。

三浦さん 私は、県大に入学すると、文系の大規模大学に比べて将来の選択肢が狭まるのではと不安がありました。ヒューマンケア体験実習で他学科の学生と交流したり、先輩で病院以外の企業に就職した方の話を聞いたりする中で、将来の可能性の広がりを感じました。

「学内活動」 ×「活躍を通じて感じるつながり」

林学長 皆さんが取り組んでいる学内の活動について、ぜひ聞かせてください。

三浦さん 私は学生自治会で、スポーツフェスティバルや「卒業生を送る会」の企画をしています。去年、初めて卒業生を送る会に参加したのですが、準備が本当に大変で…。でも、先輩たちが楽しんでいる姿を見て、やってよかったなって思いました。

林学長 卒業生を送る会は、開学当初からの伝統でしたが、コロナ禍で一度途絶えてしまっ

て。私が学生支援センター長だったときに、なんとか復活させたいと思って再開しました。今

県大を 最大限に 活用する

では学生主体で続いているのが本当に嬉しいです。学生自治会は、集金や運営など大変なことも多いけれどもっと活動をアピールしてもいいと思いますよ。

三浦さん そうですね。もっと積極的に発信していきたいです。

美濃和さん 私はサークル連合長を務めています。サークル連合は、今年度から各サークルから一人ずつ代表を出してもらう形に変えました。これまで活動を知らなかった学生にも関心を持ってもらえるようになって、方向性の決定もみんなですっきり話し合えるようになりました。

増崎さん 私は今年度、清透祭実行委員長をしています。学外の方とも関わりがあって、地域の夏祭りにも参加しています。地元の自治会の方々と話す機会があるのですが、自治会の方から先代委員長の話を聞いたりすると、自分の知らないところでつながっているなど、人と人とのつながりを改めて感じました。

林学長 若い人の力は地域でもとても期待されていますね。コロナ禍のときは清透祭もオンライン開催で苦労も多かったけれど、今では多くの学生が集まるようになって、本当に嬉しいです。皆さん、学業やアルバイトも忙しい中、活動との両立は大変だと思いますが、頑張ってください。



「県大を最大限に活用する」 ×「卒業後もつながる学びの場」

林学長 皆さんには、大学生活の中で「県大を最大限に活用して」ほしいと思っていますが、おすすめの活用方法はありますか？

三浦さん 前期と後期の最初に担任の先生と面談の時間があるのですが、面談以外でも進路や悩み事を相談しています。授業で分からないことがあったらすぐに質問しています。先生方がいつも親身になって話を聞いてくださるので、本当にありがたいです。

美濃和さん 私も先生とのつながりを活用しています。学会に参加する際には、先生の伝手を頼って他大学の先生に話を聞いたこともあります。AI分野に強い先生が他学科にいと聞いたので、今度はその先生にも話を聞いてみたいと思っています。

林学長 2人は「教員を活用する」ということですね。教員との距離が近いからこそ、学びが深まると思います。

増崎さん 私は「施設を活用する」タイプです。夏休みも情報センターが開いているので、涼しい環境で課題に集中できますし、自習室では友達と一緒に勉強しています。

林学長 今、学内での活動を頑張っている皆さんには卒業後も大学と卒業生のハブになってもらいたいと思っています。卒業後のつながりについても聞いていきたいと思いますが、どのような支援があると良いですか？

増崎さん 大学院に進学した地元の先輩から、入学試験が大変だったという話を聞きました。私は一度臨床に出てから、大学院で学び直したいと思っているのですが、少し不安があります。

林学長 語学の勉強を続けてTOEICを定期的に受けることが大切です。また、抄読会やゼミの研究会など、関心のある分野の先生とつながり続けることも、進学への大きな力になります。大学院の定員も増え、戻ってきやすい環境になっていますよ。

増崎さん ありがとうございます。

林学長 ホームカミングデーやSPU学会、研究開発センターシンポジウム、オープンカレッジ講座など、県大では卒業後も学びを続けられる場をたくさん用意しています。卒業後もぜひ県大を最大限活用してください。本日は貴重なお話を聞かせていただきありがとうございます。これからも県大を盛り立てていただけたらと思います。



座談会に協力していただいた学生をご紹介します



学生自治会長
三浦 春奈さん

学生自治会では、スポーツフェスティバルや卒業生を送る会などのイベントの企画や自治会の運営を行っています。仲間と協力して行事を成功させたときの達成感は大きく、やりがいを感じています。



サークル連合長
美濃和 巧真さん

サークル連合では、現在41のサークルが所属しており、助成金の取りまとめや部室の管理などを行っています。各サークルの活動が円滑に実施できるように運営をしています。



清透祭実行委員長
増崎 楓さん

清透祭実行委員会では、カラオケやスタンパリーの企画、各サークルや地域の方と連携を取り、出店や演奏を管理しています。すべての人が楽しめるように頑張ります。



学長
はやし ひろえ
林 裕栄

埼玉県立衛生短期大学での勤務を経て、1999年の開学とともに埼玉県立大学に着任。学生支援センター長や学部長を歴任し、2025年4月から現職。

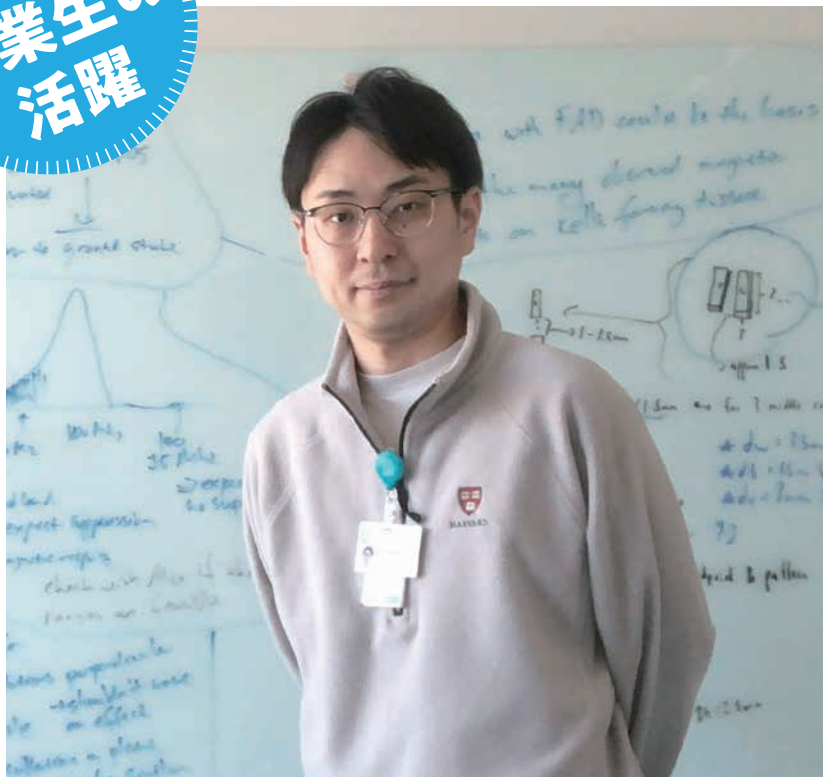
「つながりを未来へ。卒業生と育むアルムナイネットワーク」

このたび、本年4月より学長を拝命いたしました林裕栄です。本学では、社会の急速な変化に対応するため、様々な改革を進めております。

大学院では、定員を拡大するとともに、学部から博士課程まで一貫して学べるコースを新設し、より継続的な学びを提供できる体制を整えました。学部では、健康開発学科「健康行動科学専攻」を「健康情報学専攻」に専攻名を変更しました。これにより、新たな時代のニーズに対応した教育をスタートさせています。また、地域社会への貢献と卒業生の皆様の生涯学習を支援するため、履修証明プログラムを拡充しました。従来の「専門職連携を学ぶ講座」に加え、保健医療福祉分野の政策や事業の企画立案に必要な知識を学べる「保健医療福祉政策プログラム」を開設いたしました。

大学院や各種プログラムなど、皆様の成長を支援する様々な仕組みをご用意しております。本学の様々な学びの機会をぜひご活用ください。

今後、卒業生の皆様との連携はますます重要になると考えております。ホームカミングデーなどのイベントにも、皆様のご参加をお待ちしております。同窓会の皆様とも協力し、卒業生同士のつながりをさらに深める「アルムナイネットワーク」の強化にも取り組んでまいります。卒業生の皆様とともに、本学の未来を築いていけることを楽しみにしております。



01 2008年度卒業

保健医療福祉学部
理学療法学科

飯島 弘貴さん

IIJIMA Hirofumi

Profile

2009年に大学卒業後、医療機関での実務経験を経て、2017年に京都大学大学院医学研究科で博士号を取得。慶應義塾大学理工学部、ピッツバーグ大学医学部、名古屋大学高等研究院を経て、2023年よりハーバード医科大学大学院リハビリテーション医学講座助教授。The Journal of Physiology, The Journal of Gerontology: Series Aの編集委員を務める。

勤務先

Department of Physical Medicine & Rehabilitation, Harvard Medical School, Boston, MA, USA

- 現在の仕事内容**
- 運動器の加齢性疾患に対するリハビリテーション研究の推進と研究室の運営
 - 米国政府（国立衛生研究所など）の競争的研究費の申請・獲得
 - 日本および米国からの若手研究者や大学院生、医学部レジデントの受け入れと指導
 - 国際学術誌の編集委員としての査読や特集号の企画

現在、米国・マサチューセッツ州にあるハーバード医科大学大学院およびスパルディング・リハビリテーション病院に所属し、関節や筋肉などの運動器に関わる加齢性疾患について研究しています。目指しているのは、こうした疾患の仕組みを明らかにして、より効果的なリハビリテーションにつなげること。そのために、NIH（米国国立衛生研究所）からの研究資金を獲得しながら、研究の企画・実施・人材育成など、研究室の運営にも力を入れています。

埼玉県立大学を卒業後、順天堂大学附属病院で理学療法士として臨床経験を積みました。その後、研究に興味を持ち、京都大学大学院で博士号を取得。これまでに慶應義塾大学理工学部や米国・ピッツバーグ大学医学部、名古屋大学高等研究院など、国内外のさまざまな研究機関で学際的なプロ

ジェクトに携わってきました。現在は、そうした経験を活かして、日本からの若手研究者の受け入れや育成にも積極的に取り組んでいます。

こうしたキャリアの出発点は、埼玉県立大学での学びと臨床実習にあります。とくに、膝の疾患を抱える患者さんと向き合った経験から、運動器のしくみに強く興味を持つようになりました。患者さん一人ひとりに合わせたリハビリの大切さと同時に、その限界も痛感したことが、今の研究テーマを選んだ大きなきっかけです。また、在学中の仲間との交流を通して培われた「柔軟な発想」や「学び続ける姿勢」も、今の自分にとって欠かせない財産です。

これからは、基礎研究と臨床をつなぐ橋渡しをさらに進めていきたいと考えています。私に関わっている国際コンソーシアム

（Alliance for Regenerative Rehabilitation Research & Training）のような取り組みをさらに発展させ、リハビリテーション医学を軸とした新しい学問領域を築いていくことにも挑戦していきたいです。こうした取り組みでは、既成概念にとらわれない柔軟な発想（Out-of-the-box thinking）が重要であり、さらに、ノーベル生理学・医学賞を受賞したハワード・マーティン・テミンの業績に象徴されるように、異なる分野の知見が交差することで新たな発見が生まれる「テミン効果」を意識した研究姿勢を大切にしたいと考えています。日本と米国の双方の研究環境をつなぎながら、医療と科学の発展にささやかでも貢献していければと願っています。

PHOTO Gallery



所属するラボは、多国籍かつ多様なバックグラウンドを持つメンバーで構成されています。文化や言語の違いはあっても、チームワークは抜群。日々、笑いの絶えない賑やかな雰囲気の中で研究に取り組んでいます！



ハーバードクラブにて、国際シンポジウムのセッション座長を務めたときのひとコマです。無事にセッションが終わり、緊張が解けてみんなニコリ。心なしか、表情に「解放感」がにじみ出ています。



ボストン名物、フェンウェイパークでのレッドソックス戦。球場の熱気はもちろん、試合日の通勤電車も異常な盛り上がりで、まるで朝の山手線状態。これもまた、ボストンらしい日常のひとコマです。

02 2018年度卒業

保健医療福祉学部
社会福祉子ども学科福祉子ども学専攻

高橋(伊藤) 早織さん

TAKAHASHI(ITO) Saori

Profile

大学卒業後、社会福祉法人なでしこ会に入職し、第二なでしこ保育園に配属。0～1歳クラスを中心に5年間担任を持ち、約1年間の産休育休へ入る。令和7年度から仕事復帰をし、現在は第三なでしこ保育園の2歳児クラスを担当。休日に1歳の娘とお出かけする事を楽しみに毎日の仕事に励んでいる。

勤務先

社会福祉法人なでしこ会
第三なでしこ保育園

- 現在の仕事内容**
- クラス運営・保護者対応・おたより作成
 - 行事の企画、運営・シフト組み
 - 月案、週案等の書類作成



私は大学卒業後、母園である第二なでしこ保育園に就職しました。幼い頃大好きだった保育園で、大好きな先生方と一緒に働けることが何より嬉しかったことを覚えています。そして、自分も子ども達にとって安心できる保育士になれるように、毎日楽しい保育が展開できるようにと心掛けながら子ども達と向き合ってきました。毎回うまくいくわけではないですが、「子ども達が喜んでくれるかな？」と準備した活動で楽しそうな笑顔を沢山見られたときには保育の楽しさを実感します。また、保護者の方からの嬉しい言葉もやりがいにつながっており、感謝の言葉や子ども達が楽しかった保育園の話が家庭でしていることを伝えてくれたり、卒園後、クラス替え後も私を訪ねてきてくれたりすることがとても嬉しいです。

昨年娘が生まれ、私も母となりました。職

場や両親に沢山のサポートを頂きながらも、毎日が慌ただしく、仕事と家庭の両立の難しさを実感しています。しかし、それも悪いことばかりでなく、以前より保護者の悩みや思いにより共感できるようになり、保育士としてのステップアップの段階なのだと思っています。

大学の授業では、同級生の前で模擬保育を行う実技指導がとても印象に残っています。子ども達の様子を想像しながら指導案を書き、強い緊張感の中、模擬保育を行い、そしてフィードバックをもらいながらより良い保育を考えました。現場では毎回指導案を書くことはないものの、この一連の流れは毎日の保育運営と同じ流れで、私の基盤となっていると感じます。また、実技指導で先生から教わって作った絵本やペープサート、模擬保育のために調べて計画を練った案は、自分

の引き出しの一つとなって、現在も保育現場で活躍をしています。

就職をしてからあっという間に6年が経ち、その間に保育方針や自分の職場での立場も変わってきました。すでに自分の中に定着した保育を変えていく難しさを日々感じたり、中堅の職員としてできること、やらなくてはいけないことが実行できずに悩んだり壁にぶつかっていると感じています。しかし、なかなか進まない一歩にもどかしさを感じながらも、研修や他園の先生方との座談会に参加してみたり、職場の先輩方にアドバイスをいただいたりしながら、少しずつ自己研鑽できるよう心掛けています。保育の中心はいつも子ども達です。これからも子ども達の笑顔を大切に、保育をしていきたいと思っています。

PHOTO Gallery



保育グッズの作成
自作した絵本やペープサートは保育で大活躍！子ども達も大好きで楽しんで見てくれます。



娘との水族館におでかけ
週末の娘とのお出掛けが今の楽しみです。いろいろな経験をさせてあげたいと思っています。



大学の友人たちと
在学中から仲の良い友人達。今でも連絡を取ったり、年に1、2回集まったりしています。



03 2019年度卒業

保健医療福祉学部
健康開発学科健康行動科学専攻※

柴崎 貴大さん

SHIBAZAKI Takahiro

Profile

川越市役所に入庁後、道路環境整備課で道路占用事務を4年間担当。社会人1年目の時に、健康運動指導士の資格を取得。現在は生活福祉課でケースワーカーとして生活保護受給者の支援に従事。学生時代は、リレー・フォー・ライフ・ジャパンin川越で四大学連携Saipeの一員として夜カフェの企画・運営を行っていた。

勤務先

川越市役所

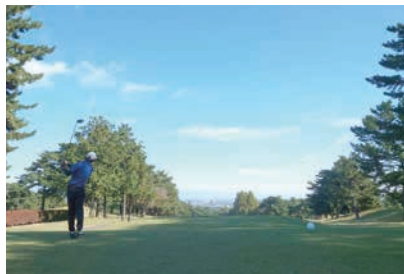
- 現在の仕事内容**
- 生活保護申請の対応(調査、審査、決定)
 - 生活保護受給者の方の家庭訪問
 - 生活保護費計算、訪問記録作成等事務
 - 不正受給対策事務

卒業後、川越市役所に入庁し、道路環境整備課に配属され、4年間に渡り道路占用許可事務を担当しました。健康行動科学専攻から自治体に就職する人は、保健医療福祉系の部署に配属される傾向でしたので、自分もそうだろうと予想してましたが、見事に外れ、土木系の知識ゼロからのスタートでした。周りの先輩職員に支えられ、一生懸命に目の前の仕事をしていたのを覚えています。私が担当していた道路占用許可とは、電柱、標識、工事用の足場、水道管、ガス管等を道路に設置し、継続的に道路を使用する際の許可のことです。一見、市民の健康とは関係が薄いように思われがちですが、実際は、密接な関係があります。例えば、足場や電柱により歩道が狭くなれば歩行者の危険が増し、道路工事による陥没や振動は近隣住民の生活に影響を及ぼします。また、浄化槽排水が側溝に溜まれば不衛

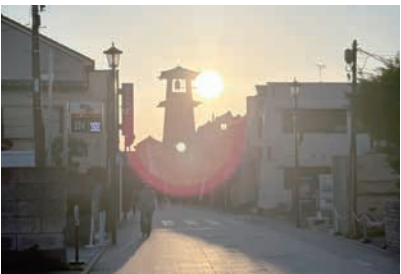
生な環境を招きます。道路占用を許可する過程で、道路法関係法令の数的基準だけでなく、現地に足を運んで調査したり、近隣住民からの要望があるか確認したりと、状況に応じて適切な許可・指導を心掛けていました。現在は、生活福祉課で、ケースワーカーとして、生活保護受給者の自立に向けた相談支援を行っています。家庭訪問したり、関係機関に聞き取りしたりし、各世帯の状況・課題を把握し、援助方針を立て、支援しています。受給者の中には、ヘルスリテラシーの低い人も多く見られ、適切な通院や服薬をしていなかったり、中断してしまったりするケースもあり、健康状態の悪化につながることもあります。こうした状況の中で受給者の行動変容を促すことは、支援において非常に重要でありながらも難しい課題であると日々感じています。行動変容の第一歩として、分かりやすく丁寧

に健康や制度に関する知識を伝えることが、支援の土台になると考えており、日々の支援の中で意識していることでもあります。経済的・身体的に困難に直面する方に寄り添い、生活が今よりも少しでも安定していく姿を見た時に大きなやりがいを感じます。大学時代には、武里団地の住民を対象に健康実態についてアンケート調査を行い、地域の特性や健康課題から、課題解決に向けた健康プログラムを考え、実施しました。また、IPW実習では学科を横断したチームを形成、連携し、利用者中心のケアを念頭に置きディスカッションし、支援計画の検討、発表、リフレクションを行いました。これらの経験により培った課題解決能力やヒューマンケアマインドは、現在の仕事に活かされているのはもちろんのこと、他者との関わりや、自己成長等においても活かされています。

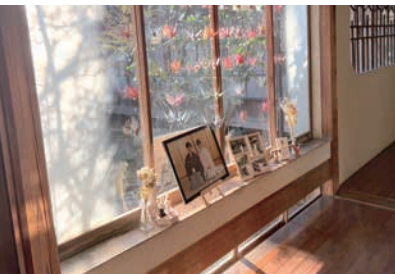
PHOTO Gallery



社会人4年目から本格的にゴルフを始めました！今ではスコア70台も。日頃の疲れのリフレッシュにもなります！



仕事帰りに撮ったお気に入りの写真です。ぜひ、みなさんも川越に遊びに来てください！



新しい生活をスタートしました！式には高校、大学の友人を招き、忘れられない1日になりました。

04 2023年度修了

保健医療福祉学研究科
博士後期課程

天野 良文さん

AMANO Yoshifumi

Profile

大学卒業後、実習先であった成増厚生病院に就職。2018年に同大学院博士前期課程を修了し、2024年に博士後期課程を修了する。臨床に従事しながら、アルコール依存症者の注意バイアスについて研究している。現在も成増厚生病院にて精神科作業療法士として勤務。

勤務先

成増厚生病院

- 現在の仕事内容**
- アルコール依存症専門治療病棟、精神科救急病棟の作業療法を担当する
 - 中央教育研究委員会に所属し、全職種対象の教育に携わる

私は現在、成増厚生病院のアルコール依存症専門治療病棟および精神科救急病棟にて、作業療法士として勤務しています。精神科の現場で14年にわたり従事し、これまでにアルコール依存症の方を中心に、精神科救急病棟や慢性期病棟の患者さまにも携わってきました。作業療法士として大切にしているのは、入院されている方一人ひとりの「思い」に耳を傾けることです。どのような背景で入院に至ったのか、どのような生活を送りたいと思っているのか——そうした声を丁寧に受け止めながら、退院後の生活を見据えた支援を行っています。精神科作業療法は、ただ症状の軽減を目指すだけでなく、再び社会の中で生活していく力を共に育むものであり、その深さとやりがいを日々実感しています。

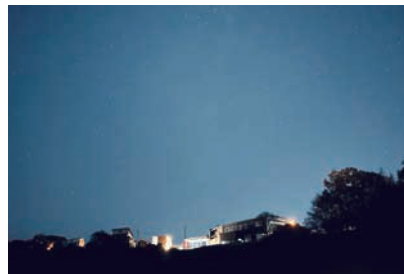
精神科作業療法に興味を持ったきっかけは、大学時代の臨床実習でした。精神科デイケアでの実習では、ある利用者が地域での生活を継続できるよう、自転車を練習し一人で買い物に行けるようになるための支援をしていました。利用者に寄り添いながら、小さな目標の達成が大きな自信へとつながっていく過程を間近で見たとき、作業療法士という職業の面白さと可能性を強く感じました。埼玉県立大学では、基礎から応用、研究まで幅広く学ぶことができ、その後の進路選択においても大きな影響を受けました。学びの場は、単なる知識習得にとどまらず、私にとっては人生の選択肢を広げてくれた存在だったと感じています。現在は、臨床に携わる傍ら、「アディクション関連問題作業療法研究会」にも所属し、ア

ディクション領域における作業療法の発展に努めています。また、大学院での研究では、アルコール依存症の方における「注意バイアス」について検証し、2024年には博士後期課程を修了しました。研究では、依存症における注意・認知機能の偏りやそれに伴う行動パターンの理解を深めることを目指し、臨床への応用可能性を探っています。今後も、研究と臨床の両面から、依存に悩む方々が自分らしい生活を取り戻していけよう、作業療法の視点から支援を続けていきたいと考えています。一人ひとりの歩みに寄り添い、その人らしい暮らしを支えることを、丁寧に重ねていきたいと思っています。

PHOTO Gallery



職場の同僚とスウェーデンソーで焚火をしている写真です。焚火を利用して焼いたソーセージがおいしかった！



焚火をしつつ、ぼーっと空を眺めながら仕事のことや今後のことをとりとめなく話している時間にエネルギーをもらっています。



年に2回、山菜採りとキノコ狩りに出かけています。自然に触れて、美味しいものを食べ、また日常に戻ってきます。

～懐かしの先生から～

卒業生・修了生の皆さまへのメッセージ

卒業生の皆さん、お久しぶりです。私たち3人から、思い出を振り返りながら、卒業生の皆さんに向けてメッセージを送ります。

教員生活の思い出

國澤 東京電機大学工学部の学生さんと看護学科の学生がペアを作り、看護学科の学生が挙げた看護の場面について、工学部の学生が作った力を測定する装置でデータをとる、という卒業研究を行ったことがあります。工学部の学生と看護の学生で違った視点からデータを分析し、合同発表会をしました。お互いに、他大学の学生と交流するということがとても新鮮な経験だったと思います。また、本学で健康開発学科が開設され、そちらに異動したときには、授業でたくさんの実験をしました。味覚や温度の感じ方、障害物の避け方等、学生からいろいろな実験のアイデアが出て楽しい授業だったことを記憶しています。

延原 コンピュータ演習の授業では、皆さんに自動再生する自己紹介の資料をPowerPointで作ってもらいました。授業ではPowerPointの基本的な使い方が教えていなかったのですが、中には「どうやって作ったのか」と思うほど凝った作品や、素晴らしいデザインの作品があり、発表の時には皆さんからも歓声が上がっていました。また、当時は社会人入試や編入で入学してきた方も多く、様々な人生経験がある学生の自己紹介は大変興味深かったです。

林 実習が始まったばかりの2年生の頃は、実習中に自分が失敗したことばかりを振り返って気にして

しまう学生が多いです。しかし、3年生、4年生と経験を積んでいくにつれて「子ども達のこんな素敵な姿を見つけた」、「子ども達の言動からこう考えて、こんな工夫をした」等、子どものことをよく見て、感じたこと・考えたことを振り返っている学生の姿を見て、「成長したなあ」と感じます。

大学の「これ」を見に来て！

國澤 雨上がりに、よく大学から虹が見えます。私は二重の虹も何度か見たことがありますし、一度だけ三重の虹も見たことがあります。また、お天気のいい日には学内の床や壁におもしろい影を見つけることができます。学生時代には目をやることばかりなかったかもしれませんので、ゆっくり時間をとって見に来てみませんか。

延原 健康行動科学専攻は、2025年度入学生より健康情報学専攻と名称変更しました。あわせて、情報通信技術の基礎的科目等を追加し、新しい先生方も着任しておられます。一方、専攻創設時から在任している先生方もおられ、健康行動科学専攻の雰囲気もたっぷり残っていますので、ぜひ遊びに来てください。

林 卒業生の皆さんも行った清透祭での子ども劇場は、後輩たちも毎年様々な工夫を凝らして頑張っています。また、社会福祉子ども学科では一昨年から、清透祭に合わせてホームカミングデーを開催しています。卒業後に感じた嬉しいこと、楽しいことだけで

なく、ちょっと躓いていること、悲しかったこと等、話しに来てくれたら嬉しいです。ぜひ清透祭にいらしてください。

卒業生・修了生の皆さまへのメッセージ

國澤 皆さんには、県立大学の卒業生であることを誇りに思い、活躍してほしいと願っています。特に本学は日本で初めて専門職連携教育に取り組んだ大学です。皆さんにとって当たり前のIPWは、まだ実践に至らない組織・機関もあると思います。皆さんが現場でのIPWを促進するとともに、専門職連携教育の推進者にもなってくれるように願っています。

延原 専攻の名称は変わりましたが、皆さんは「健康行動科学専攻」の卒業生に変わりはありません。履歴書等には「健康行動科学専攻」と記入してください。また、新しくなった健康情報学専攻を応援してください。

林 それぞれの現場で対人支援職に取り組むなかで、時には落ち込むこともあるかと思いますが、そんな時に一番頼りになるのは、学生時代に一緒に悩んで成長した仲間です。仲間と共有することで、楽しさ・嬉しさは倍に、悲しみ・辛さは半分になります。卒業してからも、ぜひ仲間を大事にしてください。そして、よく食べて、よく寝て、よく遊ぶこと！健康な心身に「よい保育者」が宿ることを忘れないでください。

今回お話を
伺った
先生方



國澤 尚子 教授

看護学科/学科長
1999年～2012年在任。2019
年に再任。専門は基礎看護学



延原 弘章 教授

健康開発学科健康情報学専攻
2011年着任。専門は保健統計・
疫学



林 恵津子 教授

社会福祉子ども学科福祉子ども学専攻
2011年着任。専門は特別支援
教育学・発達生理心理学

メッセージは
動画でも見られます



<https://www.spu.ac.jp/life/message.html>

学生 生活編



2025年の
清透祭は
10月25日&26日
開催！

写真提供 (2024/10/26,27)

ご来場の方々と楽しい時間を過ごすために、模擬店やステージ発表など学生一丸となって企画や当日運営を頑張りました。



キッチンカー試験的試行 (2025/1/20～31)

学生からの要望が多かったキッチンカーの誘致を試験的に行いました。授業の合間に多くの学生が利用し、楽しんでいる様子が見られました。

授業編



実践の場において基礎となる知識と、臨機応変に対応するための技術力を修得するため、先生方・友人たちと日々邁進しています。



スポーツフェスティバル

(2024/12/7,8)

学年の垣根を超えた交流の場として、学生自治会が企画。様々な種目を通し、学生同士の仲を深めました。



サークル活動

40以上のサークルが活動中。体育系、文化系問わず、大会やボランティアへ参加したり、地域の方々との交流会を企画運営したりと、課外でも精力的に活動しています。



県大生の今

KENDAISEI NO IMA

講義や実習、学内イベントなどに参加することにより、人と人とのふれあいを大切にしながら学生たちは多くのことを学んでいます。学生主体のイベントや課外活動も、勉学と両立して楽しんでいます。



コロナ禍等で留学生の送り出しや受け入れが中断されていましたが、昨年度は、クイーンズランド大学UQカレッジ（オーストラリア）との協定書締結や、学生の留学プログラムへの参加などの国際交流を再開しました。本学では、教育・研究のグローバル化への対応や国際的な視点を持った人材の育成に向けて、引き続き交流推進を図ります。

クイーンズランド大学UQカレッジとの協定書の締結

クイーンズランド大学は世界大学ランキングでトップ100に入る大学です。UQカレッジもオーストラリア国内でトップ3の大学英語学センターです。本学では、2004年度からクイーンズランド大学附属英語学校への短期留学プログラムを行ってきました。コロナ禍等で短期留学プログラムの中断もありましたが、2025年春から留学プログラムを再開することになりました。林学長はこれを機にUQカレッジを訪問し、留学中の本学学生の授業やキャンパスの素晴らしさを見学するとともに、改めて協定書を締結し、今後の留学プログラム継続を約束しました。 <https://www.spu.ac.jp/news/?itemid=2411&dispmid=508>



協定締結の詳細は
本学HPをご覧ください。



留学プログラムへの学生参加

昨年度、本学が協定を締結しているクイーンズランド大学UQカレッジ及びチューリッヒアプライドサイエンス大学（スイス）の短期留学プログラムに計14名の学生が参加しました。留学プログラムでは、現地の医療施設見学や異文化についての講義、ホームステイの受け入れなど様々な体験プログラムが用意され、語学力以外にも多くの学びを得ることができます。現地や他国の学生との交流を通して学生同士がお互いを理解するなど、グローバルな視点を養う貴重な機会となりました。

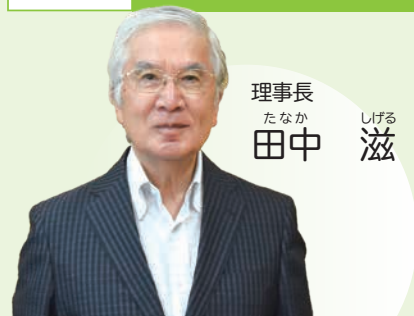
参加した学生の声

- 現地の先生方も、渡航前からプライベートまで手厚くサポートをしてくださいました！常に異文化に触れ、英語を話すことが出来るとも恵まれた環境です！本当に楽しいカリキュラムだったのでぜひ参加してみてください！（チューリッヒアプライドサイエンス大学）
- 現地の学生との交流により、英語でのコミュニケーションを通して、文化の違いを比較することができ、とてもいい学習になりました！（クイーンズランド大学UQカレッジ）



理事長コラム

地域包括ケアシステムと地域共生社会を推進する埼玉県立大学卒業生



公立大学法人埼玉県立大学理事長/慶應義塾大学名誉教授
現在務める主な公職は、医療介護総合確保促進会議座長、協会けんぽ運営委員長など

埼玉県を始め、日本各地の市町村では地域包括ケアシステムの構築が進められています。最近20年間で日本中に広がりました。上位目的である地域共生社会に近づくために最も役立つ手段といえるでしょう。地域包括ケアシステムには5つの構成要素があります。医療・介護・予防・くらし支援・住まいと住まいの5つです。

加えて、自助（市場サービス利用を含め自分で自らの生活を支える力と互助・共助・公助を使いこなす力）、互助（家族や地域の支え合いなど）、共助（誰もが対象となる医療保険制度と主に高齢者のための介護保険制度）、公助（生活保護に代表される社会福祉制度など）の組み合わせが求められます。

地域包括ケアシステムは、保健医療福祉に携わる専門職のみならず、自治体職員や地元企業従事者など、さらに何より住民が参加してこそ進化していくのです。埼玉県立大学の卒業生・修了生は、本学の強みである多職種連携教育の成果を活かして他者と協働し、専門職であるかないかを問わず、それぞれが暮らし、働く地域の包括ケアシステムのコアメンバーとして活躍できる力を身に付けて世の中に貢献してきましたし、これからも貢献を果たしていくでしょう。

同窓会からお知らせ

いつも同窓会の活動にご協力いただき、ありがとうございます。最近では、若い世代の参加も増え、同窓会の雰囲気も少しずつ変わってきています。世代を超えて交流できる場として、気軽に参加できるイベントの企画やSNSでの情報発信をしていきたいと思っています。これからも、同窓生同士のつながりを大切にしながら、母校を応援していきましょう。今後の活動にも、ぜひご注目ください！それでは、またどこかでお会いできるのを楽しみにしています。

埼玉県立大学同窓会 副会長 金子睦（社会福祉学科6期卒業）



清透祭に模擬店を出店しており、今年も開店予定！！一緒にお店を運営してくれる方、募集中！！是非、同窓会ブースにお立ち寄りください♪



2025年の清透祭は、
10月25日&26日開催！

県大の“イマ”を知ろう

卒業生がSNSで最新情報を発信中！
講座案内など卒業生に役立つ情報も。今すぐフォロー♪



X https://x.com/spu_dosokai?s=21&t=xuTGxQBVGzQ9bbd96qi1Ug
Instagram https://www.instagram.com/spu_dosokai/?utm_source=qr
Facebook <https://m.facebook.com/spudousokai>



あらゆる大学イベントの機会を見つけては、コパトン・さいたまっちに来てもらっています！

同窓会活動にご協力ください。
興味のある方は
dosokai@spu.ac.jp

県大を盛り上げています

ホームカミングデー



毎年、大学と連携して各学科・専攻でホームカミングデーを開催しています。

昨年は、5月に看護学科、10月の清透祭と同時開催で看護学科、社会福祉子ども学科、口腔保健科学専攻、11月に教職課程のホームカミングデーを開催しました。懐かしの先生や友人と交流するとともに、異なる卒業年度の卒業生同士が繋がる貴重な機会ですので、皆様のご参加をお待ちしております。

卒業生向けの支援

卒業後の就職支援

本学では卒業後も就職相談や求人情報の提供を行っています。キャリアカウンセラーへの相談は卒業後3年間利用可能で、履歴書添削や面接練習などに対応しています。卒業学科の教員への相談も可能であり、転職成功の報告も届いています。求人情報は「キャリアタスUC」で閲覧可能です。

詳細は就職支援担当までお問い合わせください。
✉ syusyoku@spu.ac.jp



卒業生向けオープンカレッジ講座



保健医療福祉・教育分野で活躍する方を対象に、資格更新や最新技術の学びを提供しています。卒業生は、受講料が無料*になる特典もあります。詳細は大学ホームページをご確認ください（※一部対象外の講座あり）。

- 〈卒業生を対象とした講座の例〉
- 卒業生保健師勉強会
 - 現場で使える3Dプリンタの活用法
 - 超音波スケーリングに関する講座 等

埼玉県立大学オープンカレッジ講座
<https://www.spu.ac.jp/society/open-lecture>



同窓会活動の補助費

埼玉県立大学同窓会では、同窓会員の活動の活性化を目的に、活動への補助費（上限2万円）を交付しています。最近では、学科・サークルでの同窓会やホームカミングデー、退職教員記念講演等に利用されています。申請方法等詳細は大学ホームページをご確認ください。

◀フットサルサークルClue 卒業生の集まりの様子

埼玉県立大学 同窓会
<https://www.spu.ac.jp/about/supporter/>



